情報公開文書

1．研究の名称
皮膚を構成する諸細胞の体細胞変異
2．倫理審査と許可
京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。

3．研究機関の名称・研究責任者の氏名
研究責任者：京都大学　皮膚科　椛島健治
1）共同研究機関
Wellcome Sanger Institute: Inigo Martincorena, Group Leader, Cancer, Ageing and Somatic Mutation

2） 研究機関以外において、既存試料・情報の提供を行う者が含まれる場合は、当該者の氏名、当該者の所属する機関の名称（多数にわたる場合は提供を行う者全体に関する属性等）
なし

4．研究の目的・意義
私たちの肌は、日々新しい細胞に入れ替わりながら、私たちを守っています。この研究では、肌の細胞の一つひとつに注目し、その中に隠された小さな変化を詳しく調べます。肌の表面の細胞から奥深くの細胞まで、様々な種類の細胞に起こる変化を調べていくことで、私たちの肌がどのように老化したり、病気にかかりやすくなったりするのかを解明したいと考えています。例えば、紫外線や大気汚染といった環境要因が、肌の細胞にどのような影響を与え、どんな変化を引き起こすのかを詳しく分析します。また、これらの変化が、将来、がんや他の病気につながる可能性があるのかを調べることで、新しい治療法の開発にも繋がるかもしれません。この研究を通じて、私たちの肌の健康を維持するための新しい知識が得られると期待しています。

5．研究実施期間
研究機関の長の実施許可日～2028 年 6 月 11 日

6．対象となる試料・情報の取得期間
2019 年 1 月 1 日から 2023 年 6 月 7 日(研究承認日)の間に、京都大学医学部附属病院皮膚科において、皮膚生検・手術をした患者さん

7．利用または提供を開始する予定日
2023 年 12 月 1 日

8．試料・情報の利用目的・利用方法
皮膚サンプル、または抽出した DNA を共同研究施設に送ります。シークエンス解析し、体細胞変異を同定します。実験データは個人を特定しない形でデータベース(European Genome Phenome archive)に登録されます。

9．利用または提供する試料・情報の項目
試料：皮膚ないし、抽出した DNA, 細胞、血液
情報：年齢、性別、診断名

10．当該研究を実施する全ての共同研究機関の名称および研究責任者の職名・氏名
3 と同じ

11．試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称

椛島健治

12．研究対象者またはその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること及びその方法

ご自身の試料・情報を研究に利用されたくない方は、連絡先までその旨お知らせ頂ければ、解析対象から削除します。

13．他の研究対象者等の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内での研究に関する資料の入手・閲覧する方法

連絡先までお知らせいただければ研究計画書を提供いたします。

14．研究資金・利益相反

1） 研究資金の種類および提供者

科研費　日本学術振興会

2） 提供者と研究者との関係

日本学術振興会は研究の企画、運営、解析、論文執筆に関与していません。

3） 利益相反

利益相反について、京都大学利益相反ポリシー、京都大学利益相反マネジメント規程に従い、京都大学臨床研究利益相反審査委員会において適切に審査しています。

15．研究対象者等からの相談への対応

1） 研究課題ごとの相談窓口

京都大学　医学部附属病院　皮膚科　椛島健治

(Tel) 075-751-3310

2） 各研究機関における相談等窓口

京都大学医学部附属病院 臨床研究相談窓口

（Tel）075-751-4748 （E-mail）ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp

3) 遺伝カウンセリングに関する窓口（相談する場合のみ）

京都大学医学部附属病院 遺伝子診療部

（Tel）075-751-4350（受付時間 平日 13：00～16：30）)

16．外国にある者に対して試料・情報を提供する場合

試料は解析のために英国に送られます。英国では Human Tissue Act 2004 (ヒト組織法)、Data Protection Act 2018 (個人情報保護法)に基づく、厳密な個人情報の保護処置が行われます。具体的には、まず参加者の名前は京都大学で仮名化されます。Human Tissue Act 2004 ではヒト組織の研究利用は厳密な英国政府の認証を受けた施設のみで許可されています。サンガー研究所は認証を受けた機関の一つであり、試料の受け入れ時には研究所固有の試料の識別子を発行し、そのバーコードを京都大学に発送します。京都大学でバーコードを試料の容器に貼付し英国に発送します。このように二重に仮名化されているため、個人が特定される可能性はほぼありません。